

横浜の海で進む“生き物の変化”が見えてきました

～第16回海域生物相調査の結果報告～

横浜市では、水質や生き物の様子を調べるため、昭和48年から海の生き物の調査を実施しています。令和6年から令和7年にかけて行った今回の調査では、これまで横浜の海にはいなかった生き物の生息も確認されました。

調査の結果は、報告書「横浜の川と海の生物(第16報・海域編)」としてまとめ、環境科学研究所のウェブページに掲載しています。また、横浜市内立図書館や市民情報センターでも報告書を御覧いただけます。

1 横浜の海で起きている生き物の変化

最近の横浜の海では、これまで確認されなかった生き物が増えてきています。

まず、東京湾の外側に生息する生き物が東京湾の内湾で見つかる「外洋化」という変化があります。今回の調査では、その例としてテナガツノヤドカリがいくつかの場所で見つかりました。

次に、南の海にすむ生き物が見つかる「南方化」という変化も見られます。ウロハゼやガンテンイシヨウジも前回に続いて確認されました。

これらの生き物は、水質や海水温の変化などによりすむ場所を広げ、横浜の海に少しずつすみついていると考えられます。

さらに今回の調査では、東京湾ではあまり見られないアマオブネガイやキンセンガニなどの生き物や、セトミノカサゴ、オニオコゼなどの魚が初めて確認されました。

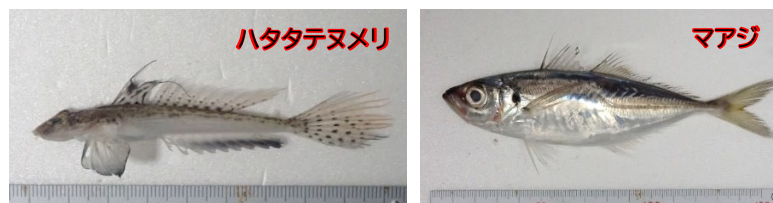


(貝殻から体を出した状態)

2 海底から中層へ 魚の分布の変化

昔はハタテヌメリやコモチジャコなど、泥底を好む魚が最も多く見られていました。しかし平成28年以降は、シログチやコノシロなど海の中層にいる魚が多くなる傾向があり、今回の調査でも、中層にいるマアジがいちばん多く、海の底の環境が変わってきていることがうかがえる結果となりました。

今後は水質や海水温の変化だけでなく、海底の砂や泥などの状態の変化にも注目して調査を続けていきます。



(裏面あり)



3 調査の概要

横浜市では、昭和48年から海の生き物の調査を続けています。今回の16回目の調査は、令和6年10月(秋季)から令和7年7月(夏季)まで、季節ごとに行いました。調査は河口・海岸の7地点と内湾の3地点、合わせて10地点で行い、合計で527種の生き物が見つかりました。

そのうち絶滅が心配されている生き物(レッドリストに載っている生き物)は35種で、干潟にすむ巻貝や甲殻類などの海岸動物のほか魚類が多くを占めていました。

また外来種は14種見つかり、その多くは二枚貝やフジツボなどの海岸動物でした。

さらに見つかった生き物の種類から水質を評価したところ、10地点のうち9地点で「きれい」と判定されました。

| 調査項目 | 種数(種) | レッドリスト等掲載種(種) | 外来種数(種) | 初確認種数(種) |
|--------------|-------|---------------|---------|----------|
| 海草・海藻 | 47 | 3 | 0 | 0 |
| 海岸動物 底生動物 | 284 | 15 | 14 | 28 |
| 魚類 | 101 | 17 | 0 | 6 |
| プランクトン | 95 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 527 | 35 | 14 | 34 |

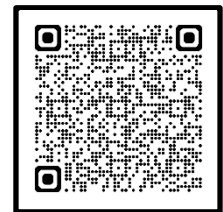


4 調査に関するウェブページ

調査に関する情報は、ウェブページで御覧いただけます。また、横浜市立図書館や市民情報センターでも報告書を御覧いただけます。

(1) 海域生物相調査

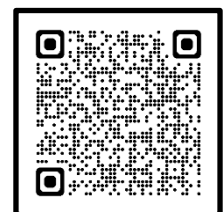
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/kaiiki.html>



海域生物相調査 横浜市

(2) 報告書「横浜の川と海の生物」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/shiryo/kawatoumi/>



横浜の川と海の生物 横浜市

| | | |
|----------|----|------------------|
| お問合せ先 | | |
| 環境科学研究所長 | 吉田 | Tel 045-453-2550 |



GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

